

# 4ヶ月間の韓国留学

情報文化学科 2年 南真央

## \*はじめに

私は8月31日から12月26日までの4ヶ月間、韓国のソウル市にある경희대학교（キョンヒ大学）に語学留学しに行きました。私は中学生の時に聴いた韓国アーティストの曲がとても好きで、そこから韓国語に興味を持ちました。そして留学を決めたきっかけは語学力の向上も理由の1つですが、親から離れ、外国という新しい環境の中で自分がどのくらい成長できるか試してみたかったからです。留学は期待と不安しかありませんでした。大好きな韓国でずっと学びたかった韓国語を学べ、観光やショッピングなど多くの楽しみがありましたが、それよりも不安が大きく、実家暮らしの私が家事をこなせるのか、勉強はついていけるのか、友達はできるのだろうか、など多くの不安がありました。しかし実際に韓国へ留学に行ってみるとその不安は日に日に無くなり、帰る頃にはまだ韓国にいたいと思うくらいまで充実したものになりました。



## \*大学での授業

最初の3週間はほぼ日本人との授業でした。私のクラスにはロシア人の女の子がいましたが、他は全員日本人でした。授業は当然すべて韓国語で行うので、最初は先生が言っていることが理解できないことがあり、これから授業についていけるか不安になりました。しかし韓国語を聞くことに慣れてくると徐々に言っていることが理解できるようになり、楽しく会話もできるようになっていきました。この3週間の中で現地学習があり、Nソウルタワー、世界遺産の□号宮（キョンボックン景福宮）などの観光地にも行きました。韓国の古風な建物や景色を見て感じることができ、良い経験になったと思います。



3週間が終わると、秋学期が始まりました。秋学期は10週間で、中間考査と期末考査がありました。この秋学期のクラスはさまざまな国籍の人がいました。日本、香港、中国、スウェーデン、ベトナム、サウジアラビアの国の人がいて、私は国情生1人だったので最初は心細く感じていました。しかしクラスで私が1番年下だということもあり、みんな仲良くしてくれて、可愛がってくれました。もち



ろんすべて韓国語で会話をするので大変なこともあり、ときどき英語で会話をしたり、香港や中国の友達とは漢字でやりとりすることもあり、とても新鮮でした。クラスメイトはみんな面白く、にぎやかなクラスでした。お昼に学校の近くの食堂で一緒にプデチゲやサムギョプサルを食べに行ったり、クラスメイトが誕生日の日にはサプライズパーティーをしたり、だんだん打ち解けてふざけて笑い合うことも増えていきました。毎日充実していて学校に行くことが楽しかったです。しかし中間、期末考査は大変でした。듣기 (聞き取り) 말하기 (話すこと) □기 (読み取り) 쓰기 (書き取り) 문법 (文法)



の5つがあり、勉強が大変でした。私は特に□하□が苦手だったので、友達と対話の勉強を必死にしました。中間考査はテキストの半分がテスト範囲でしたが、期末考査はテキストのすべてが範囲だったので、すべての教科の復習がとても大変でした。しかし、テストが終わった後の解放感と達成感は素晴らしいものでした。先生はゴン・ミジン先生とキム・ウニョン先生で可愛らしく、面白い先生でした。分からないところがあると分かりやすく教えてくれて、テスト前の不安も先生のおかげでなくなっていました。ゲームをしながら韓国語を学ぶこともありました。ジェスチャー

ゲームが多く、日本人の私は恥ずかしくジェスチャーの動作も小さくなってしまいました。しかしほかの国の友達はその動作をすることを恥ずかしがることなくゲームを楽しんでいたもので、これも文化や性格の違いなのだと感じることができました。

午後の授業は韓国の歴史、映画、歌、ゼミナールがありました。実際にテコンドーを体験したり、韓国の伝統楽器に触れたり、映画を見たり、歌の授業では自分で選んだ曲を紹介し、国情生みんなで歌ったりなど、とても楽しかったです。私はペク・ジヨン「□참 지나서 (ハンチャムチナソしばらく経って)」という曲を紹介しました。この曲は私が大好きなドラマのOSTです。みんな自分の好きなドラマの曲を紹介する人が多かったので、歌に興味を持つと同時にドラマにも関心を持ちました。ゼミの授業では私たちの留学生生活をサポートしてくれたキム・スンミン先生が担当してくれました。興味を

持った韓国のことについて調べ、まとめて発表するものでした。期末考査があったので、発表原稿やPPTを作る時間が少なく、大変だったこともありましたが、すべてが完成したときは達成感を感じました。午前の授業も午後の授業も大変なことがあり、苦労したこともたくさんあったけれど、韓国語の向上や韓国についての知識や理解を深めるための良い経験だったと思います。



#### \*도우미 (トウミ)

私には男性のソン・ウヨンオッパがつきました。オッパとは年上のお兄さんことを呼ぶ愛称です。トウミを申請するときは男性か女性、日本語ができるかできないなど、ある程度の希望をとって申請します。しかし私たちはその希望をとることがなく、トウミがつきました。私は男性が苦手なので最初は嫌で仕方ありませんでした。しかしオッパは私が苦手だということを知って、優しく接してくれました。オッパは日本語が少し話せたので最初は日本語と韓国語を交えながら会話しました。お互い日本語と韓国語を教え合いながら勉強することができました。最後には韓国語で会話するようになれてよかったです。また、オッパには美味しいお店にたくさん連れて行ってもらいました。カムジャタンやプデチゲ、タットリタンなどとても美味しかったです。オッパとの1番の思い出はクリスマスパーティーをしたことです。クリスマスイブにイテウォンで美味しいピザを食べ、お酒を飲みに行きました。私の誕生日がクリスマスだったのでオッパがプレゼントをくれて、ご飯を奢ってくれて、そのあとサプライズでケーキを用意してくれました。とても嬉しかったです。本当に素敵な思い出になりました。韓国に遊びに行ったときは、連絡する約束をしました。またいつか会いたいです。



#### \*日常生活・思い出

私たちはフェギ駅のすぐ横にある口덕안 (チャンドガン) という寄宿舎で生活しました。2人1部屋で、洗濯機、冷蔵庫、2段ベッド、机と椅子が1つずつありました。シ

シャワーとトイレが一緒なので慣れるまでは大変でしたが、慣れれば気になりませんでした。しかしシャワーなのでお風呂がありません。お風呂が恋しくなるときは□질방(チムチルバン銭湯)に行きました。この寄宿舎には門限はありませんでした。学校からは徒歩15~20分くらいですが、駅からは徒歩1分の所にあつたので、地下鉄で出かけるときはとても楽でした。寄宿舎の近くにはスーパー、コンビニ、100円ショップなどがあつたので、生活用品を買いそろえることは簡単でした。寄宿舎の管理人のおじさん、おばさんはとても親切で、日本に送る荷物を送るときや、部屋でトラブルがあつたときはすぐに助けてくれました。本当に感謝しています。

また、留学中はほとんど自炊をしました。学校の帰りにスーパーに寄り、食材を買って帰ることが習慣となっていきました。最初のうちは疲れて帰ってきてからご飯を考え、作るのは大変でしたが、慣れてくるとキムチチゲやパジョンなどの韓国料理を作るようになりました。創作料理をしたり、デザート、たまに日本料理も作ったりなど、日本にいるときはほとんどしたことがなかつたので良い経験になったと思います。朝食は買いだめしたパンや日本から送ってもらったシリアルなどを食べ、お昼は大学の学食を食べていました。日本の大学の学食と比べて値段がとても安いので学生に優しいです。フェギはパジョン通りが有名だったので、何度か食べに行つたこともあります。安くて美味しいのでおすすめです。日本から送ってもらつたレトルト食品や味噌汁はとても役に立ちました。



休日の日などはほとんど外に出かけていました。毎週いろいろなところへ行き、ショッピングを楽しみました。明洞や東大門、イデやホンデなど安くて可愛いものがたくさん売つているのでよく行きました。充実した買い物ができたと感じます。私は韓国でよくカフェに行きました。韓国には数えきれないほどたくさんのカフェがあります。値段は少し高めだけど見た目は可愛く、味はとても美味しかったです。カフェで友達と話をしたり、テスト前には勉強しに行つていました。「今日はどこのカフェに行く？」などと話しながらカフェを探すのも楽しかったです。留学中での1番の思い出は友達と江南フェスティバルに行つたことです。10月に開催される大きなフェスティバルです。このフェスティバルで私の好きなアーティストのライブがあると聞いていたので、友達と前日の夜から並んだことをよく覚えています。また、空に1番近いと言われているハヌル公園に行って綺麗な夜景や夕日を見たり、12月には大好きな韓国アーティストのライブに行つたりなど、本当に充実した生活を送ることができました。日本にいるときからずっと着てみたかつた韓服のチマチョゴリを着ることもできました。



### \*留学を終えて

私は留学を終えて、大きく成長できたと思っています。最初は不安しかなかった留学生活も慣れれば楽しく、助け合いながら送ることができました。1番の目標であった韓国語の向上は達成できたと思います。外に出れば韓国語しか話せない環境です。その環境の中で自分が伝えたいことをどのようにすれば相手に伝わるかを考え、実行したことが向上した方法の1つだと思います。また、人見知りだった私が社会的になれたのはこの留学のおかげだと思います。自分で行動しなければならぬ環境で過ごした4か月間は私にとって大きな経験になっていたのだと感じました。そして、留学でつらいことがあった時、話を聞いてくれて、心配してくれる友達がいたことは本当にありがたく、大きな支えになりました。このような有意義な留學生活を送れたのは家族、大学の先生方の支えがあったからだと思います。韓国で出会えた友達や先生、そして共に留學生活を送った10人の仲間、私の留學に関わってくれたすべての人に感謝します。この留學での経験を生かし、これからも成長していきたいと思っています。

